

「乳酸菌L.ラクティス プラズマ」による ロタウイルス感染症症状の緩和効果を確認

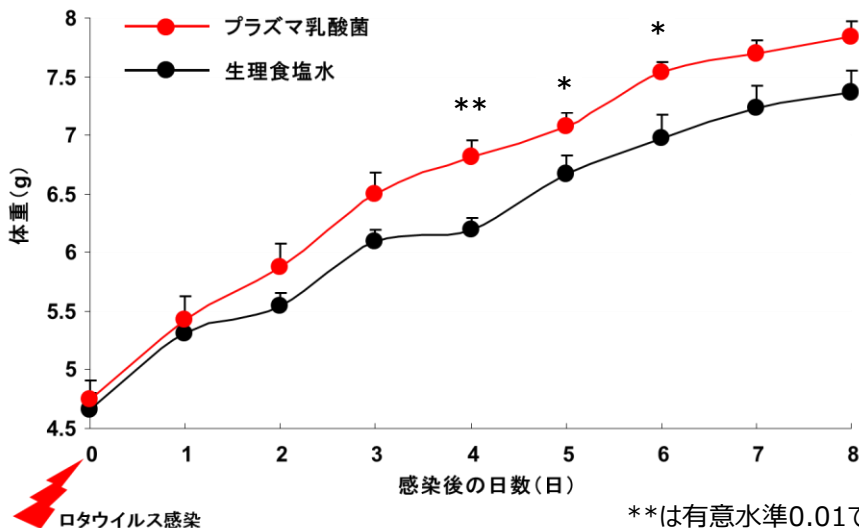
【非臨床試験方法】

生後7日齢のマウスにサルロタウイルスを経口感染させ、ウイルス接種2日前から飼育終了時まで、「乳酸菌L.ラクティス プラズマ」（以下、「プラズマ乳酸菌」）を1mg/日/匹となるように経口投与しました。

【非臨床試験結果】

「プラズマ乳酸菌」投与群のマウスにおいて、生理食塩水投与群のマウスと比較して、下痢による体重抑制が有意に緩和され（図1）、糞便性状スコアに関しても、ウイルス感染3日目で、有意な改善が確認されました。また、「プラズマ乳酸菌」投与群のマウスにおいては、感染2日後の糞便中ウイルス量の有意な低下が確認され（図2）、さらに感染3日目における腸管での抗ウイルス因子の上昇傾向、脾臓中プラズマサイトイド樹状細胞（pDC）の有意な活性化が認められました。

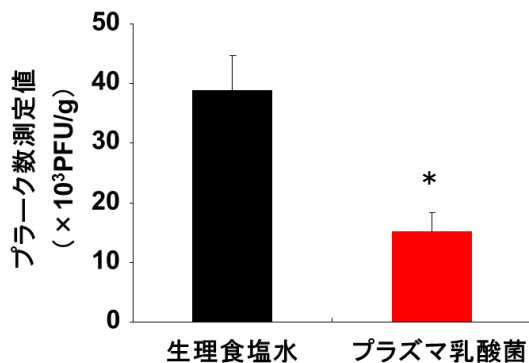
図1 ロタウイルス感染後の体重推移



**は有意水準0.01で、統計的に有意差あり
*は有意水準0.05で、統計的に有意差あり

図2 糞便中ロタウイルス量

感染2日目



*は有意水準0.05で、統計的に有意差あり